

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

3世紀東アジアの研究

A Study of East Asia in the Third Century

2. 研究代表者氏名

森下 章司

MORISHITA Shōji

3. 研究期間

2018年4月-2022年3月

4. 研究目的

3世紀の東アジアは、中国における漢王朝の滅亡、三国への分裂をきっかけとして韓・倭の地域勢力が勃興、地域社会が独立性を強めた変動の時代であった。そうした状況を物語る資料として『三国志』をはじめとする文献があるほか、とくに近年は各地の考古資料も増大し、多くの研究成果が蓄積された。こうした3世紀における地域社会の特色や相互関係に関して、考古学・文献史・思想史の各分野と各地域の専門研究者による共同研究と議論を通じ、多角的な視点から検討をおこなう。①『三国志』烏丸鮮卑東夷伝のテキスト読解、②考古学による各地の生活形態・社会制度復元との対比、③各地域の独自性と共通性の比較、④地域間交流の検討などを軸として、東アジア世界において3世紀という時代が果たした意義について総合的な研究を推進する。

The purpose of this seminar is to clarify the regional features and the relationships among the societies of China, Korea and Japan in the 3rd century. In this age, after the collapse of the Han dynasty and the formation of Three Kingdoms, the tribal societies of Korea and Japan had developed to the Chiefdom stage. San-Guo-Zhi (三国志) describes these local societies and their changes in detail; also, the number of archaeological records of this area has been increasing recently. Through textual, historical and archaeological studies, we will point out the significant role played by local societies in 3rd century Asian history.

5. 研究成果の概要

本研究班では、3世紀の東アジアをテーマとして、多角的な視野からその具体像にせまるため、2018年度から2021年度まで、4年間の共同研究を実施してきた。まず、『三

国志』魏書・烏丸鮮卑東夷伝の回読と、それに関する個人研究発表から開始し、中国・朝鮮半島・日本列島の飲食器や儀礼、水田や穀物栽培、都城制度、陵墓制度、車馬制度、交易と交流などの諸問題について、各班員が研究の成果を報告し、議論を深めた。特にその研究期間の後半において着目したのが、近年新たに発見された曹操高陵と洛陽西朱村曹魏大墓出土の石牌銘文である。それらの石牌には、墓に副葬されたと推定される品々の名称・材質・規格・数量などが記され、曹魏皇族の副葬品の全体像を知る重要な手がかりとして、また3世紀の器物の具体的な呼称を明示する同時代資料として注目されることから、先行研究の積読を再検討し、研究会で議論を重ねて新たな注釈を作成した。曹魏石牌銘文の注釈は『東方学報』に発表し、関連する個人の研究成果については報告論文集として別途刊行する予定である。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績
なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班の検討成果のうち、曹魏大墓出土石牌に関する部分を2022年5月の東方学会議(ICES)シンポジウムにおいて発表するほか、石牌銘文の注釈・整理成果を2022年12月刊行予定の『東方学報』第96冊に掲載する予定である。また、3世紀東アジアの文物を中心として、飲食、儀礼、農耕、都城、陵墓、車馬、交易と交流などの諸問題についての研究成果をまとめ、2年以内に論文集を刊行する予定である。